

3. 近未来の生体肝移植ドナー手術

1) 開腹手術の立場から

小林 剛 (広島大学消化器・移植外科学) ほか

Abstract

腹腔鏡下外側区域グラフト採取術が保険収載され、普及に向かっている。右葉・左葉グラフト採取術については、ドナーの安全性およびグラフトの機能保全に懸念が残る。ロボット支援肝切除が普及しつつあるなか、生体肝移植ドナーの安全性、およびグラフト機能の保全を重視する観点から、低侵襲ドナー肝切除の普及に向けた課題について論じる。腹腔鏡手術における課題や困難性をロボット支援手術が克服し得るかどうかが論点になる。

2) ロボット支援手術の立場から

高原 武志 (藤田医科大学肝胆膵外科) ほか

Abstract

生体ドナーの安全性を最大限担保することは、生体肝移植における最重要課題である。一方で健康な生体ドナーの体壁破壊を抑制し、創関連の愁訴を減らし、早期の社会復帰が可能となる点で、腹腔鏡下ドナー肝切除は、有用な術式である。わが国では、腹腔鏡下移植用部分肝採取術(外側区域グラフト)が保険適用となり、肝移植を除くすべての肝切除術式でロボット支援肝切除が保険適用となっている。今後、海外同様にわが国でもロボット支援ドナー肝切除が導入されていく可能性は非常に高い。